2025年3月期
期末決算 説明資料

成田国際空港株式会社

2025年5月30日

Narita Airport
Connecting Japan to the World

目次

連結決算及び連結業績予想のポイント …… 3

Ⅰ. 2024年度 航空取扱量実績ハイライト …… 4

✈ 航空取扱量実績／コロナ禍前と比較した旅客便発着回数及び旅客数の動向／新規就航航空会社及び路線

Ⅱ. 2024年度 連結決算ハイライト …… 8

✈ 連結決算概要／セグメント別損益の状況／連結キャッシュ・フローの概要

Ⅲ. 2025年度 連結業績予想 …… 15

✈ 2025年度 航空取扱量見通し／2025年度 連結業績予想／資金調達方針及び格付け情報／国からの財政支援

Ⅳ. 足元の経営トピックス …… 20

✈ 成田空港の更なる機能強化の概要／更なる機能強化事業の進捗等について／『新しい成田空港』構想にかかる動き等／NRTエリアデザインセンターの開設／空港カーボン認証レベル4取得

Ⅴ. 参考資料 …… 29

連結決算及び通期業績予想のポイント

2024年度　連結決算

- 航空旅客数は2019年度以来**5期ぶりに4,000万人を突破し**、特に、**国際線外国人旅客数は開港以来初めて2,000万人を超え最高値を更新**するなど、コロナ禍を経て、航空旅客需要は回復から成長ステージへと移行しています。また、前期はやや低調であった国際航空貨物量は、2024年4月以降、前年同月を12カ月連続で上回り、好調に推移しています。
- 航空取扱量の増加に加え、円安の効果により物販・飲食収入が好調であったこと等から、営業収益は**4期連続の増収**となりました。
- 営業費用においてもコストマネジメントの徹底に努めた結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期から**増益**となりました。

2025年度　連結業績予想

- 国際線は、中国及び東南アジア路線を中心とする増便が見込まれることから、発着回数及び旅客数は24年度を上回ると想定しています。一方、国内線は、需要は底堅いものの24年度冬ダイヤにおいて生じた減便が通期化する影響から、発着回数及び旅客数は24年度をやや下回るものと想定しています。
- 営業収益は**5期連続の増収**を想定する一方、航空需要の増加への対応、安全を最優先とした老朽化施設の修繕等にかかるコスト増を想定しており、純利益は前期比で減益となると想定しています。
- 引き続きコストマネジメントを徹底し、業績予想の達成はもとより、利益の拡大に努めてまいります。

Ⅰ．2024年度　航空取扱量　実績ハイライト

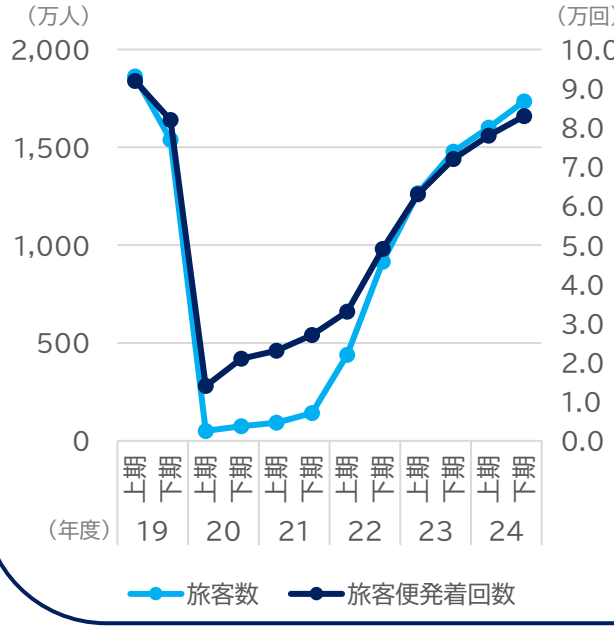
航空取扱量実績

	2023年度 実績 (A)	2024年度 実績 (B)	増減 (B)−(A)	% (B)／(A)×100	【参考】 2019年度比
航空機発着回数（万回）	**21.9**	**24.5**	**2.5**	**111.7%**	**95.0%**
国際線	16.8	19.5	2.7	116.0%	96.5%
国内線	5.1	4.9	△0.1	97.5%	89.3%
航空旅客数（万人）	**3,525**	**4,077**	**551**	**115.6%**	**98.3%**
国際線	2,744	3,337	592	121.6%	98.1%
日本人	678	828	149	122.1%	60.6%
外国人	1,789	2,273	484	127.1%	136.8%
通過客	277	235	△41	85.1%	63.0%
国内線	781	739	△41	94.7%	99.2%
国際航空貨物量（万t）	**184**	**196**	**12**	**106.7%**	**96.3%**
給油量（万 kl）	**317**	**339**	**21**	**106.8%**	**76.9%**

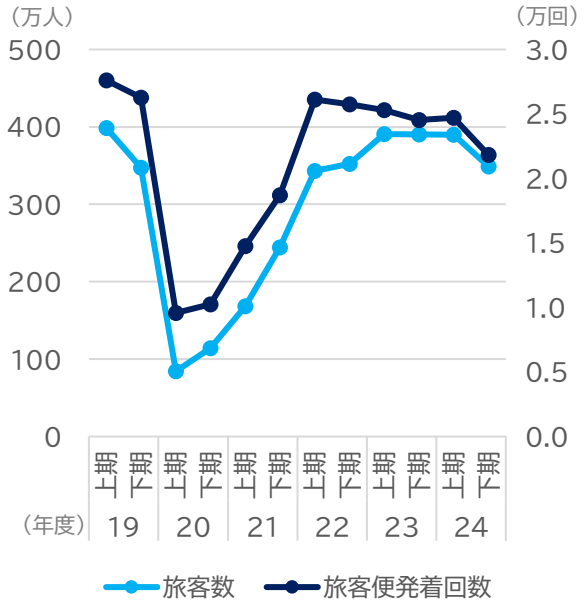
コロナ禍前と比較した旅客便発着回数及び旅客数の動向

- 国際線旅客便発着回数について、2024年度は2019年度比93%まで増加しました。中国線や韓国線をはじめとする近距離アジア路線が多く増加しています。
- 国際線旅客数については、2019年度比98%まで回復しました。外国人旅客数については、2019年度比137%と好調で、年度として初めて2,000万人を超え、過去最高を更新しました。対して、日本人旅客数については、日本人利用比率の高い本邦社の路線が羽田に移ったことや円安等により依然回復途上にありますが、着実に増加傾向にあります。
- 国内線については、一部減便・運休があったことから、旅客便発着回数においては2019年度比86%と前年度を下回りました。その一方で、旅客数については2019年度比99%と需要自体は底堅い状況です。

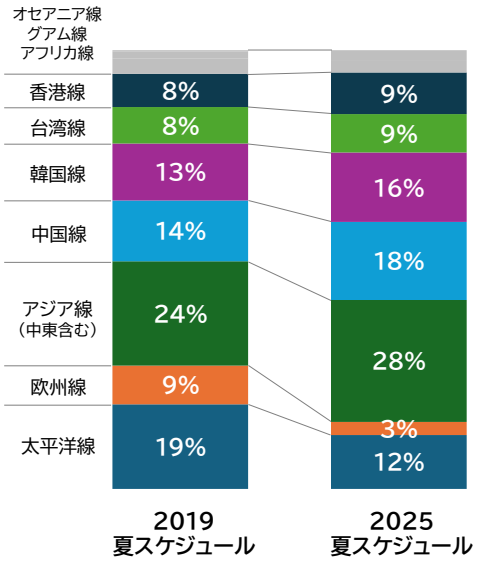
国際線



国内線



路線別シェア*

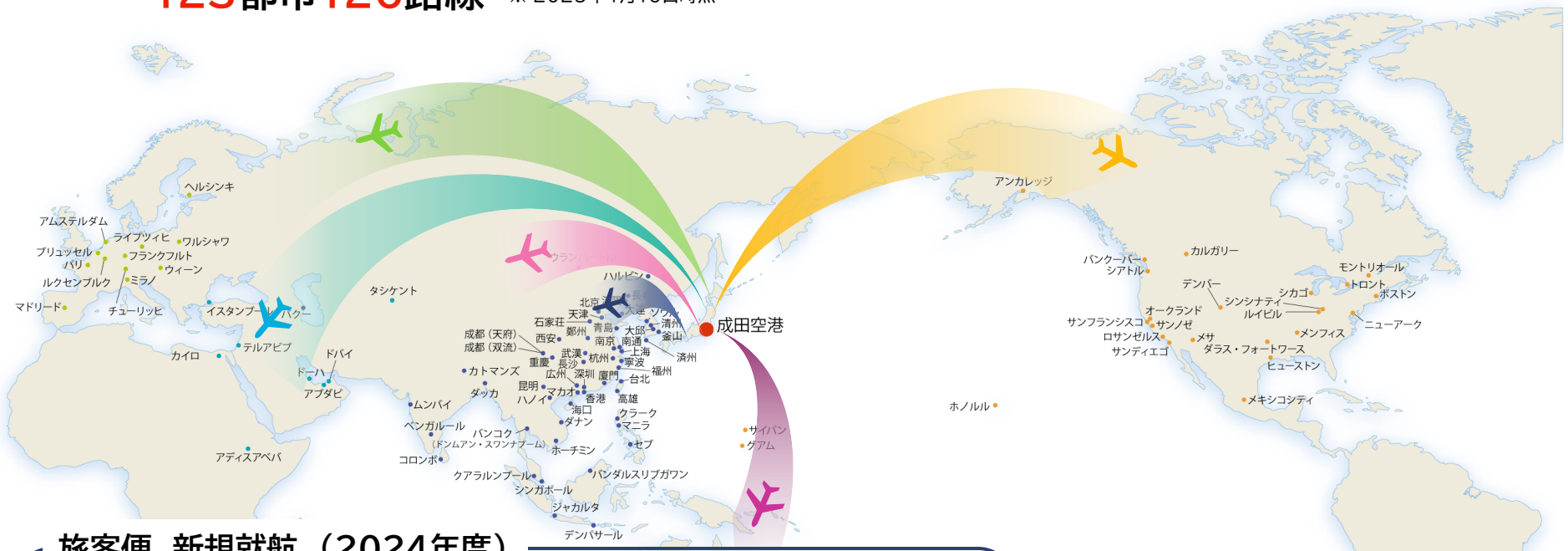


＊国際線旅客便路線別発着回数シェア（期初スケジュールベース）

新規就航航空会社及び路線

成田空港乗り入れ就航都市数

123都市126路線 ※ 2025年4月16日時点



旅客便　新規就航（2024年度）

- 春秋航空　石家荘線(4/24)
- エアー・ジャパン　シンガポール線(4/26)
- エアロK　ソウル(仁川)線(5/30)
- タイ・エアアジア　高雄＝バンコク(ドンムアン)線(6/16)
- スプリング・ジャパン　北京線(8/1)
- ユナイテッド航空　セブ線(10/27)
- ジンエアー　務安線(12/3)
- 海南航空　海口線(2/3)
- ZIPAIR　ヒューストン線(3/4)

Ⅱ．2024年度　連結決算ハイライト

連結決算概要

（単位：億円）	2023年度 実績 (A)	2024年度 実績 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100	【参考】 2019年度比
営業収益 （外部顧客への売上高）	**2,169**	**2,637**	**468**	**121.6%**	**111.2%**
空港運営事業	903	1,072	169	118.8%	98.6%
リテール事業	952	1,235	283	129.7%	130.5%
施設貸付事業	283	299	15	105.5%	97.4%
鉄 道 事 業	29	29	0	100.2%	100.4%
営業費用	**2,039**	**2,214**	**175**	**108.6%**	**112.8%**
営業利益	**129**	**422**	**293**	**326.1%**	**103.7%**
空港運営事業	△259	△91	167	-	-
リテール事業	272	405	132	148.6%	165.6%
施設貸付事業	110	103	△6	93.9%	78.3%
鉄 道 事 業	7	6	△0	93.4%	107.7%
経常利益	**106**	**404**	**297**	**378.5%**	**103.3%**
親会社株主に帰属する 当期純利益	**100**	**351**	**250**	**349.3%**	**143.9%**

セグメント別損益の状況①

空港運営事業

（単位：億円）	2023年度 実績 (A)	2024年度 実績 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100	【参考】 2019年度比
営業収益 （外部顧客への売上高）	**903**	**1,072**	**169**	**118.8%**	**98.6%**
空港使用料収入	311	351	39	112.8%	85.8%
旅客施設使用料収入	342	451	109	131.9%	114.2%
給油施設使用料収入	117	125	7	106.8%	81.3%
その他収入	131	144	12	109.3%	112.2%
営業利益	**△259**	**△91**	**167**	**-**	**-**
（営業利益率）	-	-			

セグメント別損益の状況②

✈ リテール事業

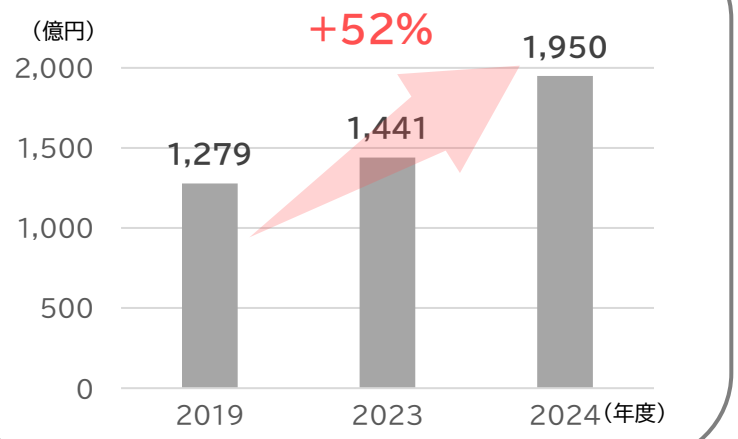
（単位：億円）	2023年度 実績 (A)	2024年度 実績 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100	【参考】 2019年度比
営業収益 （外部顧客への売上高）	**952**	**1,235**	**283**	**129.7%**	**130.5%**
物販・飲食収入	738	948	209	128.4%	127.8%
構内営業料収入	97	128	31	132.4%	119.7%
その他収入	116	158	41	136.0%	163.3%
営業利益	**272**	**405**	**132**	**148.6%**	**165.6%**
（営業利益率）	28.4%	32.6%			

リテール事業の足元の動向

＜2024年度空港内店舗売上高＞

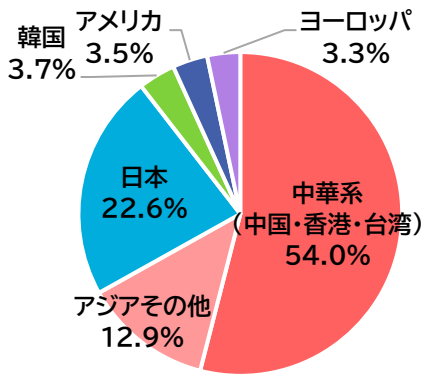
	上期			下期			通期		
	実績（億円）	前年度比（%）	19年度比（%）	実績（億円）	前年度比（%）	19年度比（%）	実績（億円）	前年度比（%）	19年度比（%）
飲食店	91	154%	125%	97	123%	156%	189	137%	139%
物販店	347	140%	134%	368	119%	173%	715	128%	151%
免税店	507	160%	137%	537	126%	179%	1,045	140%	156%
総合免税店	300	148%	100%	327	130%	135%	627	138%	116%
ブランドブティック	207	183%	296%	210	120%	368%	418	145%	327%
合計	947	152%	135%	1,003	123%	174%	1,950	135%	152%

空港内店舗売上高の推移



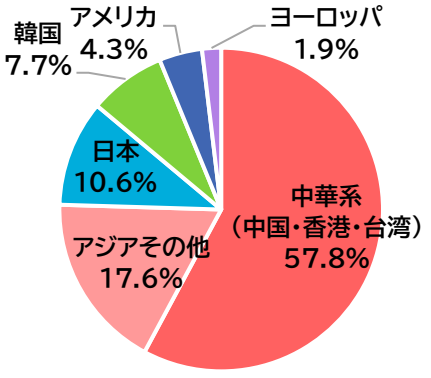
国籍別売上高シェア*

＜2019年度＞



（外国人シェア：77.4%）

＜2024年度＞



（外国人シェア：89.4%）

＊グループ子会社の免税店・物販店データによる

セグメント別損益の状況③

施設貸付事業

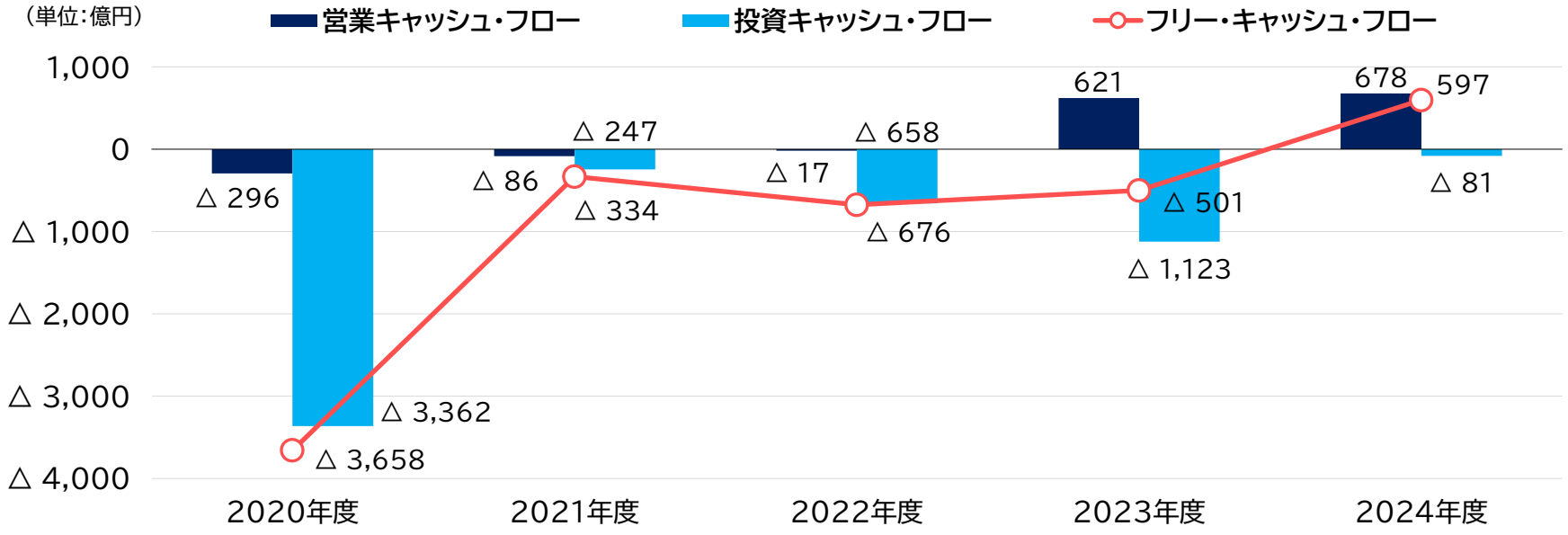
（単位：億円）	2023年度 実績 (A)	2024年度 実績 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100	【参考】 2019年度比
営業収益 （外部顧客への売上高）	283	299	15	105.5%	97.4%
営業利益	110	103	△6	93.9%	78.3%
（営業利益率）	36.9%	32.8%			

鉄道事業

（単位：億円）	2023年度 実績 (A)	2024年度 実績 (B)	増減 (B)－(A)	% (B)／(A)×100	【参考】 2019年度比
営業収益 （外部顧客への売上高）	29	29	0	100.2%	100.4%
営業利益	7	6	△0	93.4%	107.7%
（営業利益率）	23.3%	22.0%			

連結キャッシュ・フローの概要

(単位:億円)	2023年度 実績 (A)	2024年度 実績 (B)	増減 (B)－(A)	主要増減要因 (＋):増加、(－):減少
営業キャッシュ・フロー	621	678	57	(＋)税金等調整前当期純利益の増加等
投資キャッシュ・フロー	△1,123	△81	△1,042	(－)定期預金の預入による支出の減少等
フリー・キャッシュ・フロー	△501	597	1,099	
財務キャッシュ・フロー	△395	1,317	1,712	(＋)長期借入金による収入等
現金及び現金同等物の期末残高	873	2,788	1,914	



Ⅲ. 2025年度 連結業績予想

2025年度 航空取扱量見通し

	2024年度 実績 (A)	2025年度 見通し (B)	増減 (B)−(A)	% (B)／(A)×100	【参考】 2019年度比
航空機発着回数（万回）	24.5	**25.5**	**0.9**	**103.9%**	**98.6%**
国際線	19.5	20.8	1.2	106.3%	102.6%
国内線	4.9	4.7	△0.2	94.3%	84.2%
航空旅客数（万人）	4,077	**4,290**	**212**	**105.2%**	**103.4%**
国際線	3,337	3,600	262	107.9%	105.8%
国内線	739	690	△49	93.3%	92.5%
国際航空貨物量（万t）	196	**202**	**5**	**102.6%**	**98.8%**
給油量（万 kl）	339	**360**	**20**	**106.1%**	**81.6%**

※ 航空取扱量においてはイベントリスクが高く、米国関税政策の動向如何によっても影響を受ける可能性がありますが、現時点では不透明な状況であることから、見通しには織り込んでおりません。

2025年度 連結業績予想

(単位:億円)	2024年度 実績 (A)	2025年度 見通し (B)	増減 (B)−(A)	% (B)/(A)×100	(参考) 2019年度比
営業収益 (外部顧客への売上高)	**2,637**	**2,762**	**124**	**104.7%**	**116.5%**
空港運営事業	1,072	1,156	83	107.7%	106.2%
リテール事業	1,235	1,239	3	100.3%	130.9%
施設貸付事業	299	318	18	106.3%	103.6%
鉄 道 事 業	29	48	18	160.3%	161.0%
営業費用	**2,214**	**2,478**	**263**	**111.9%**	**126.2%**
営業利益	**422**	**283**	**△139**	**66.9%**	**69.6%**
空港運営事業	△91	△236	△144	-	-
リテール事業	405	394	△11	97.3%	161.1%
施設貸付事業	103	104	0	100.5%	78.7%
鉄 道 事 業	6	26	19	392.8%	423.1%
経常利益	**404**	**241**	**△163**	**59.6%**	**61.7%**
親会社株主に帰属する当期純利益	**351**	**137**	**△214**	**39.0%**	**56.3%**

資金調達方針及び格付け情報

■ 資金調達方針

資金需要や収入動向、金融市場等に関する適切な情報把握を徹底し、低利で安定的な資金調達を追求してまいります。

社債発行		
2022年度実績 1,006億円	2023年度実績 500億円 *1	2024年度実績 300億円

短期資金調達		
2022年度実績 1,280億円 *2	2023年度実績 100億円 *2	2024年度実績 -

*1 うち170億円はグリーンボンド
*2 年度累計額。返済済みの額を含む

■ 格付け情報

格付け会社名	長期(アウトルック)	短期	最終変更日
格付投資情報センター(R&I)	AA (安定的)	a-1+	2024年9月12日
日本格付研究所(JCR)	AA+(安定的)	-	2025年5月13日

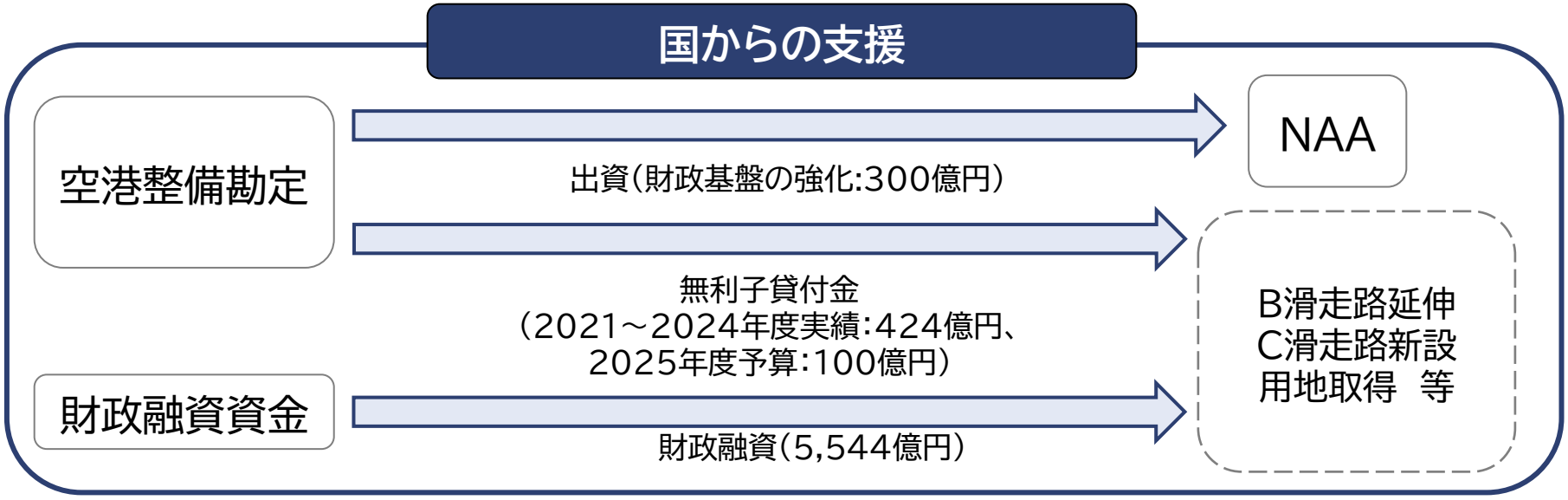
国からの財政支援

（2025年5月30日時点）

- 財務基盤の強化を目的とした国土交通省による追加出資金：300億円（2020年度）
- 「更なる機能強化」の推進を目的とした財政融資資金：5,544億円（2020年度、2024年度）
- 「更なる機能強化」の進捗に応じた無利子借入金：424億円*

*2021年度に50億円、2022年度に154億円、2023年度に120億円、2024年度に100億円が入金済み。
*2025年度の国土交通省予算においても、「更なる機能強化事業」を支援することを目的とした無利子貸付金100億円が計上されている。

首都圏空港における年間発着容量約100万回の実現を目指し、
新滑走路の整備等を着実に推進していきます。



出所:令和7年度航空局関係予算概要よりNAA作成

Ⅳ. 足元の経営トピックス

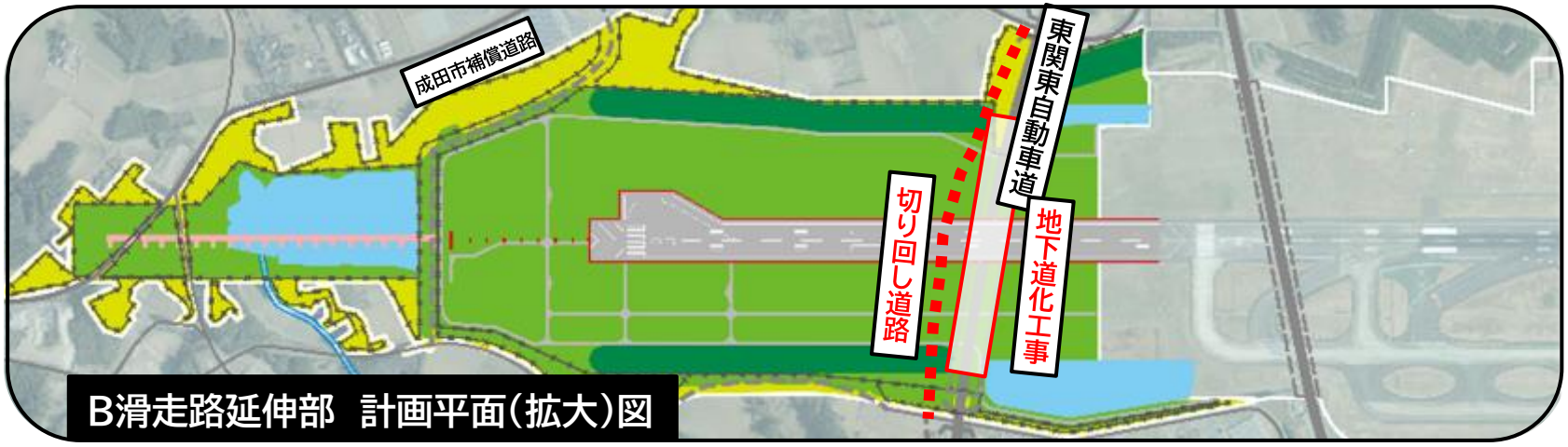
成田空港の更なる機能強化の概要

- 成田空港の更なる機能強化は、**「B滑走路の延伸（滑走路長2500m⇒3500m）」、「C滑走路の新設（滑走路長3500m）」、「夜間飛行制限の緩和」の3つの方策により年間発着容量を現状の30万回から50万回に拡大するもの**です。
- 2020年1月の航空法の施設変更許可後、各種現地調査、トンネル整備等の準備工事を進めてきたところですが、「本格工事」となる滑走路造成工事の契約締結が完了し、かつ地権者の皆様のご理解・ご協力により8割を超える用地を確保できたことから、**2025年5月から「本格工事」に着工**しています。

（2025年5月25日開催　成田空港の更なる機能強化事業 着工式典）

更なる機能強化事業の進捗等について（B滑走路①）

- 本格造成工事前の準備工事として、B滑走路延伸部は2022年10月より東関東自動車道（東関道）の切回し道路工事に着手し、2024年7月より東関道切回し道路下り線が供用し、2024年11月、東関道切回し道路上り線が供用。2024年8月より東関道地下道化工事に着手。
- 防音工事、移転補償、深夜早朝対策としての内窓設置等の環境対策も滑走路整備に遅れることなく着実に実施しています。



B滑走路延伸部　計画平面（拡大）図

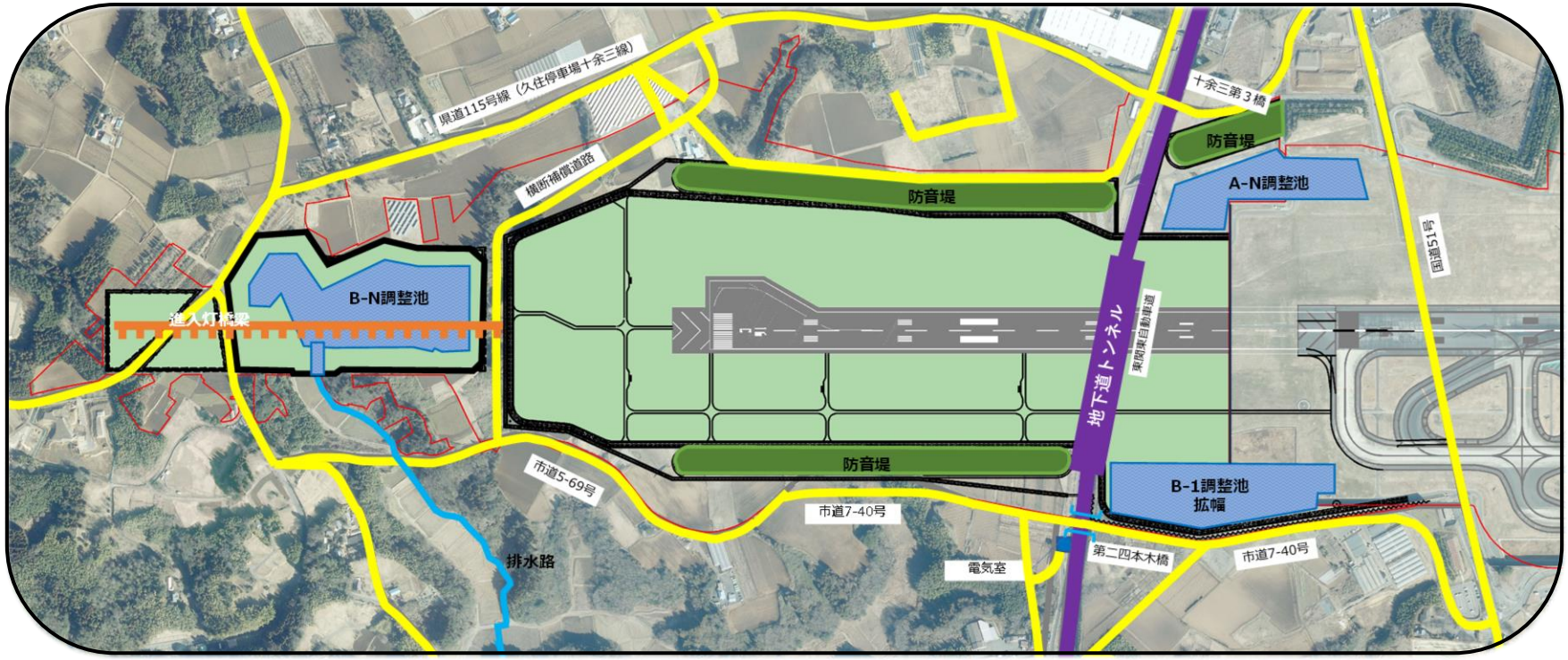
成田空港全景

- B滑走路延伸は、供用中の東関道との交差することから、東関道のトンネル化が必要。
- 東関道を切回した上でトンネルを整備する必要があるため、準備工事として東関道切回し道路工事に着手し2024年11月に完成。（拡大図内赤点線）
- 2024年8月より東関道地下道化工事に着手。

画像出典：「成田空港の更なる機能強化　滑走路整備計画の概要について」（2024年4月 改訂版）

更なる機能強化事業の進捗等について（B滑走路②）

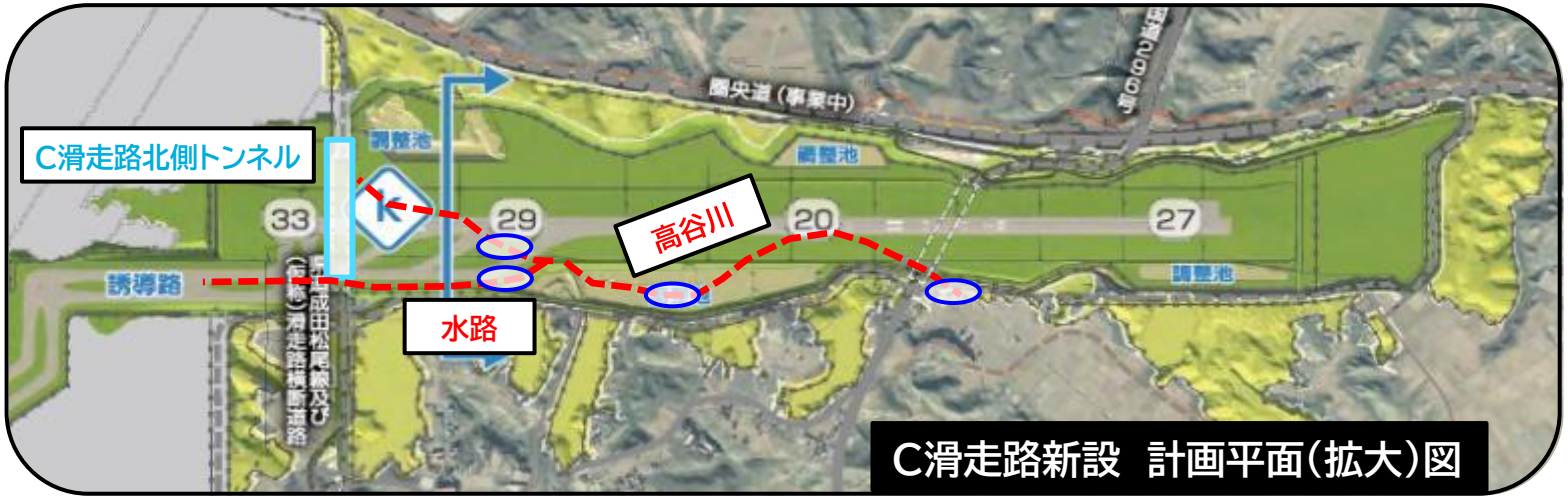
- B滑走路地区においては、2025年2月に工事契約となったため、測量・土質調査・仮囲い等の準備作業を進めてきましたが、5月以降、順次造成工事等に着手済み。



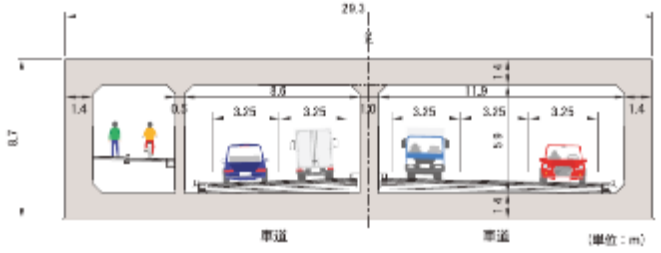
画像出典：「成田空港の更なる機能強化　滑走路整備計画の概要について」（2024年4月 改訂版）

更なる機能強化事業の進捗等について（C滑走路①）

- C滑走路新設は、3,000万㎥程度の大規模な造成工事が必要。
- 大規模造成工事における工事区域からの濁水対策を目的とした沈砂池整備を準備工事（高谷川等排水整備工事）として2023年12月6日に着手し、整備済み（拡大図内青丸）
- C滑走路整備に先立ちC滑走路東西方向のアクセス機能の付替えとなる、C滑走路北側トンネル（拡大図水色）の整備工事着手に向けた整備中。



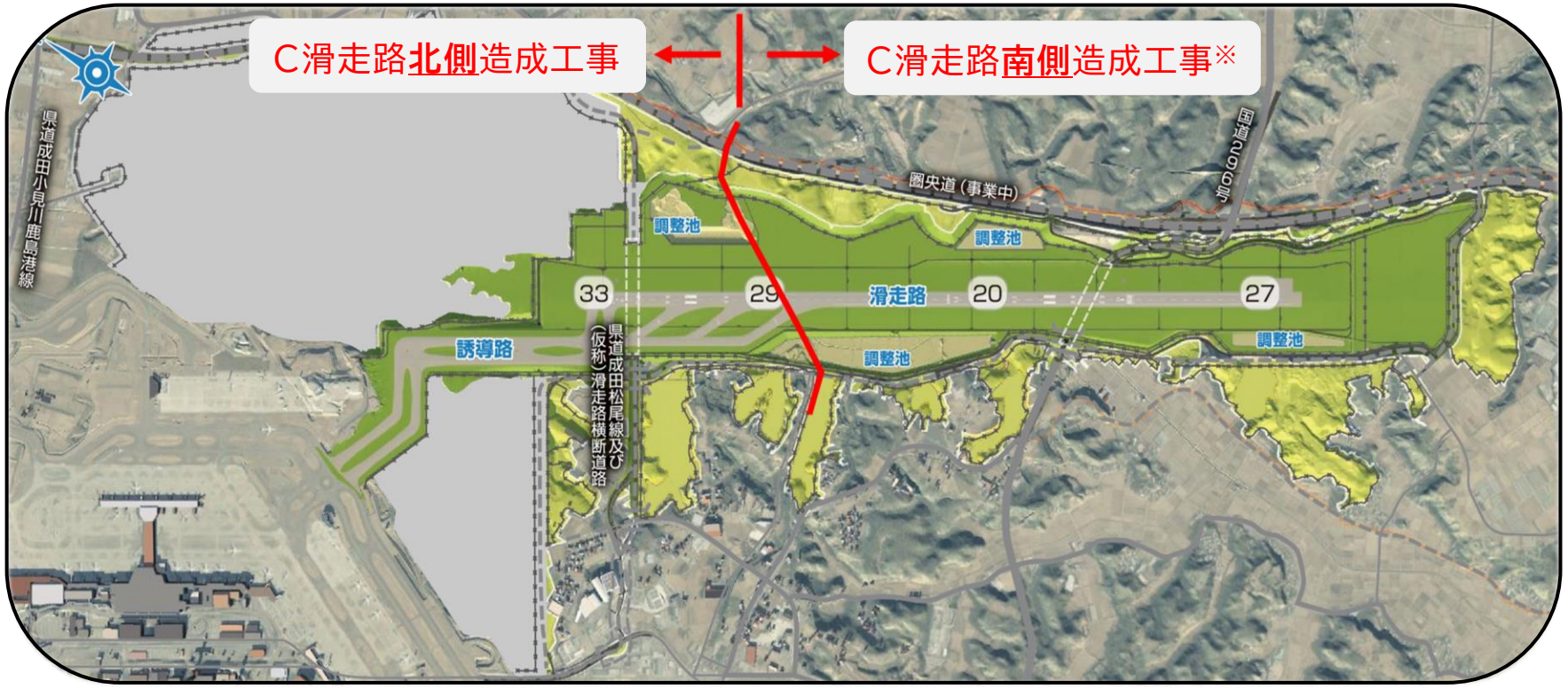
【C滑走路北側トンネル代表断面図】



画像出典：「成田空港の更なる機能強化　滑走路整備計画の概要について」（2024年4月 改訂版）

更なる機能強化事業の進捗等について（C滑走路②）

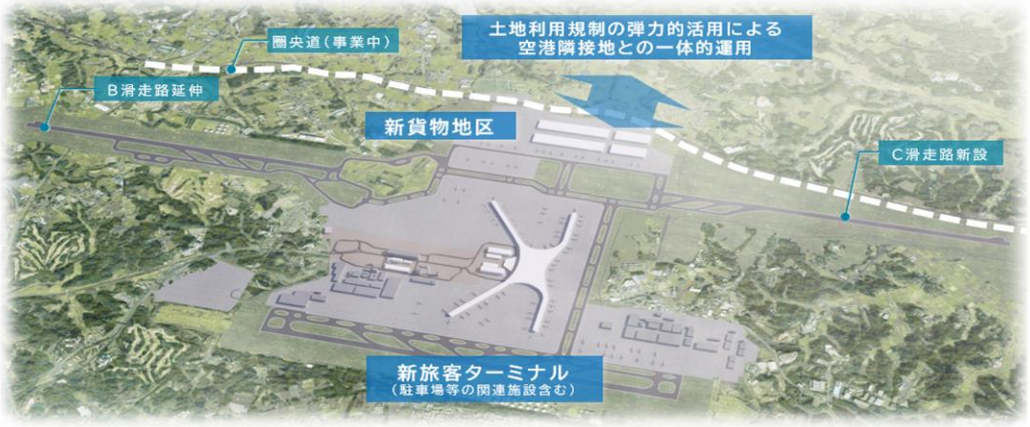
- 北側工区、南側工区ともに2025年3月に工事契約となったことから現在、着手に向け準備中。
- 準備が整った箇所から、測量・土質調査・仮囲い等の準備作業を進め、5月以降、順次地盤改良工事等に着手済み。（※南側工区については工事を数件に分けて発注予定）



画像出典：「成田空港の更なる機能強化　滑走路整備計画の概要について」（2024年4月 改訂版）

『新しい成田空港』構想にかかる動き等

2024年7月、『新しい成田空港構想』検討会での議論の成果として、「とりまとめ2.0」を公表し、国土交通省航空局長に報告して以降、9月には、国土交通省航空局が事務局となる「今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会」が設置され、空港施設整備や鉄道アクセスといった成田空港の施設面での機能強化について、現在、国においても検討が進められています。



＜本構想にかかる主な経過＞

- 2022年10月
  学識経験者、国、県、地元市町で構成する『新しい成田空港』構想検討会を設置
- 2023年3月
  検討会の「中間とりまとめ」を発表
- 2024年7月
  計9回にわたる検討会での議論の成果として「とりまとめ2.0」を公表し、当社より国土交通省航空局長へ報告
- 2024年9月
  国の検討会が設置され、第1回検討会（旅客ターミナルビルや貨物施設）を開催
- 2025年3月
  同 第2回検討会（今後の成田空港の鉄道アクセス）を開催

（画像出典：https://www.naa.jp/jp/issue/greenport/2024_10/pdf/all.pdf）

NRTエリアデザインセンターの開設

「『新しい成田空港』構想」及び「成田空港周辺の地域づくりに関する実施プラン」に掲げるエアポートシティ（仮称）実現のため、千葉県と共に「NRT エリアデザインセンター」を開設しました。

＜組織設立の目的＞

- エリアデザインセンターは、成田空港の更なる機能強化や『新しい成田空港』構想による効果を空港のみならず、周辺地域にも最大限波及させるため、「暮らし」「産業」「インフラ」の各分野における取組を強力に推進していくことを目的としています。
- また、国際的な産業拠点の形成など、エアポートシティ（仮称）の実現により、更なる航空需要の創出や我が国の経済発展、国際競争力の強化に寄与して参ります。

組織名	NRTエリアデザインセンター （NRT Area Design Center）
開設日	2025 年4月1日
センター長	石田東生（いしだ はるお） 筑波大学名誉教授 成田空港地域共生・共栄会議会長
組織体制	センター長 1名 副センター長 2名 　千葉県：総合企画部次長 　NAA　：執行役員・経営計画部戦略企画室長 専従職員 6名 ※NAA と千葉県から選出
業務内容	① 企画立案（ビジョンやゾーニング等を含む『エアポートシティ構想』の作成） ② 対外調整（コーディネート、広報活動） ③ まちづくり支援 ④ 組織運営

NADC
NRT Area Design Center

空港カーボン認証レベル4取得

国際空港評議会(ACI: Airport Council International)による空港カーボン認証(Airport Carbon Accreditation)プログラムにおいて、脱炭素化に向けた取り組みが世界的に評価され、レベル4(2025年1月)を取得しました。

＜空港カーボン認証(Airport Carbon Accreditation)＞

- ACIが、世界の空港における脱炭素化の取り組みを評価するプログラム
- ACI欧州地域により2009年に運用が開始され、順次ACI全世界地域に拡大
- レベル1からレベル5まで(レベル3,4には排出量のオフセットにより「+」付きが設定)の7段階があり、レベル5が最も高い
- レベル4とは、空港関連事業者との連携を強化して、パリ協定に基づく削減目標や削減計画を策定し削減を実行すること

SUSTAINABLE NRT 2050

- レベル4以上を取得している空港は、会員約2,200空港のうち、先進的な取り組みを進めている**約5%の空港のみ**
- 今後も、空港内に新たに建設する施設のZEB化や、さらなるSAFの導入拡大など、具体的なアクションプランを策定し、空港関連事業者と連携を強化して成田空港全体の脱炭素化に取り組んでまいります。

＜空港カーボン認証レベル4認定書＞

CERTIFICATE
of ACCREDITATION

Valid until the 10 January 2028

This is to certify that *Airport Carbon Accreditation*, under the administration of WSP, confirms that the carbon management processes at

NARITA INTERNATIONAL AIRPORT

implemented by Narita International Airport Corporation

have earned the accreditation level of TRANSFORMATION, in recognition of the airport's exceptional work in aligning its carbon management with global climate goals to reach absolute emissions reductions and establishing related partnerships with its business partners, as part of the Global airport industry's response to the challenge of Climate Change.

airport carbon accredited

Narita Airport

airport carbon accreditation

www.airportCO2.org

Stefano Baroncì
Director General
ACI Asia-Pacific

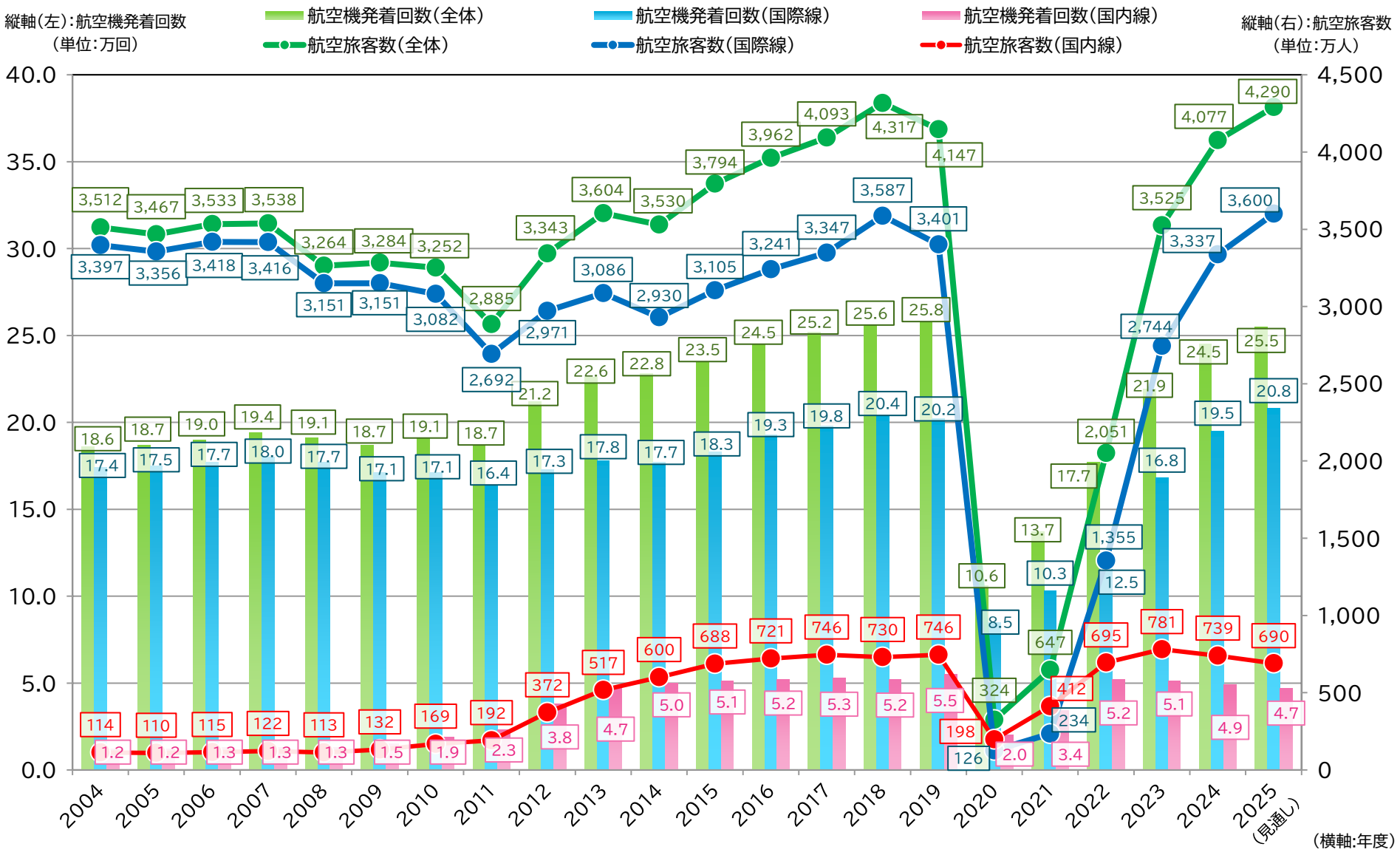
Giulio Corte
Programme Director
WSP

＜国際空港評議会(ACI)＞

- 世界の空港管理者等が参加する国際機関で、1991年に設立
- ACIの会員数は、世界169カ国・地域、2,198空港を管理する754団体
  (2025年1月時点)
- 会員が管理する空港は、世界の旅客数の約90%をカバー

Ⅴ．参考資料

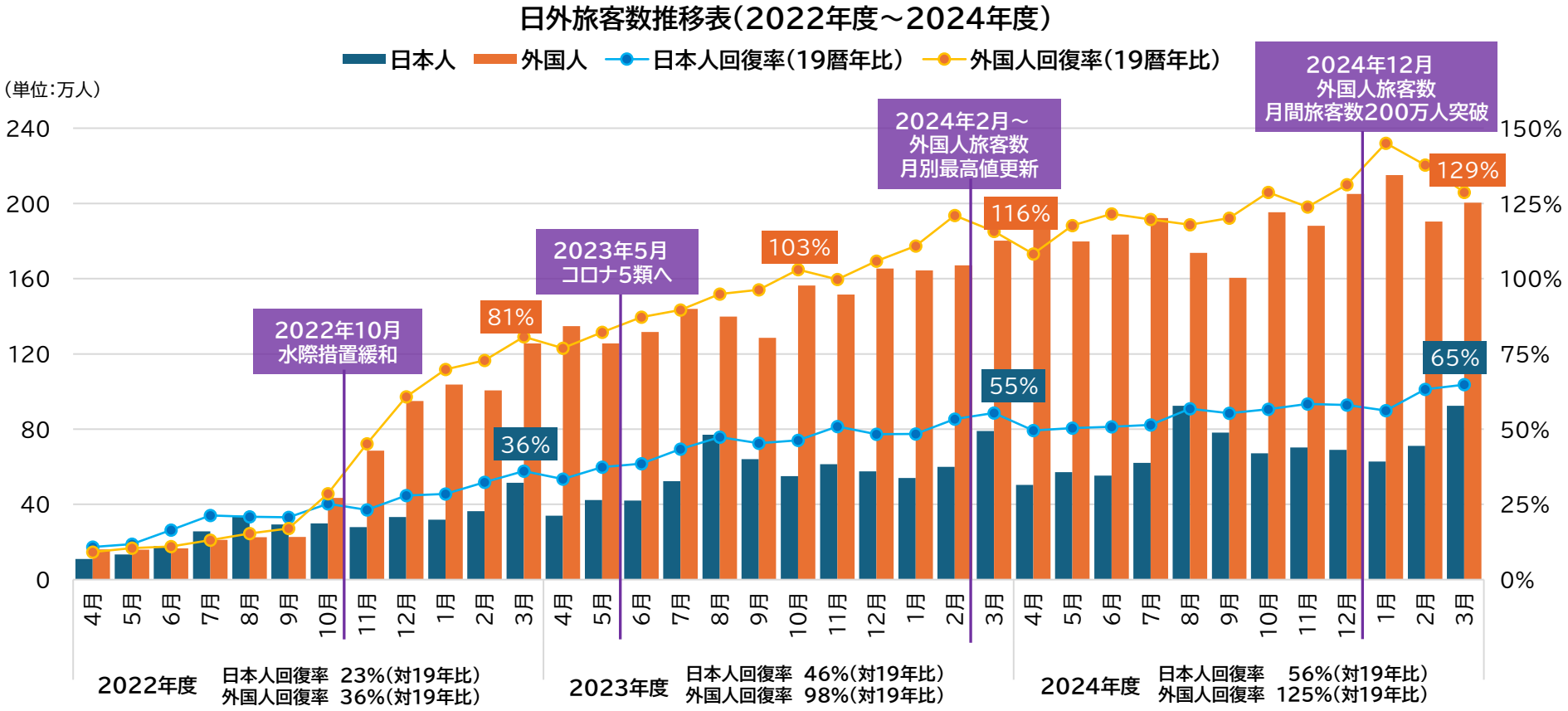
【通期】航空機発着回数・航空旅客数推移（民営化以降）



（注）航空取扱量の数量表示については、前回より単位未満四捨五入から単位未満切捨てに変更しています。

成田空港における日本人・外国人の旅客数推移

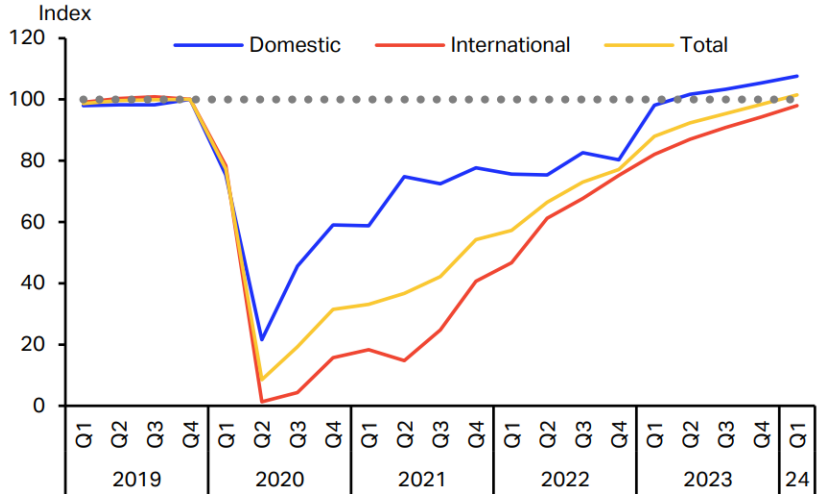
- 成田空港における日本人旅客数は、前年より着実に増加傾向にはあるものの、羽田3次増枠に伴う本邦社を中心とした移管や円安により、2024年度でコロナ禍前比6割程度の回復に留まっています。
- その一方で、外国人旅客数については訪問先としての日本の魅力の高さに円安も相まって2023年10月にコロナ前水準を超え、2024年2月以降は月別最高値の更新を継続しています。2025年1月には単月過去最高値（215万人）を記録するまでに増加しました。



コロナ禍からの需要回復の推移

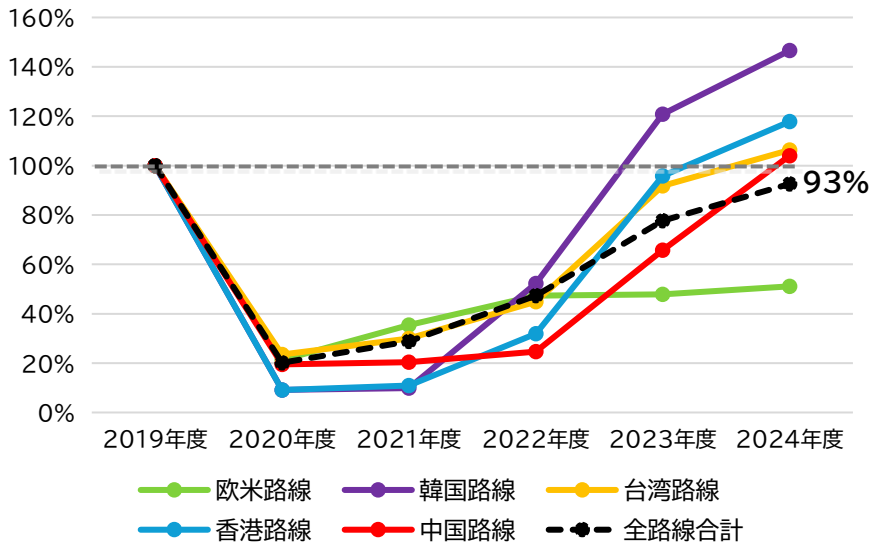
- 世界的なコロナ禍による需要減からの回復については、IATA の四半期毎の報告によると、2024年第1四半期に世界の有償旅客キロ(RPK)が初めてコロナ禍前の航空需要を上回ったことが報告されました。
- 成田空港においては、一部欧米便が羽田空港に移管したことから、欧米便については依然としてコロナ禍前の水準には戻っていません。一方で、韓国線、台湾線、香港線をはじめとする近距離アジア線や中国線の伸びが継続しており、国際線旅客便の発着回数については、着実にコロナ禍前水準に回復しつつあります。

世界のRPK(有償旅客キロ)推移
(2019Q4=100%)



出典:2024年6月 IATAリリース資料「Quarterly Air Transport Chartbook」

成田空港における方面別国際線旅客便発着回数
(2019年度=100%)

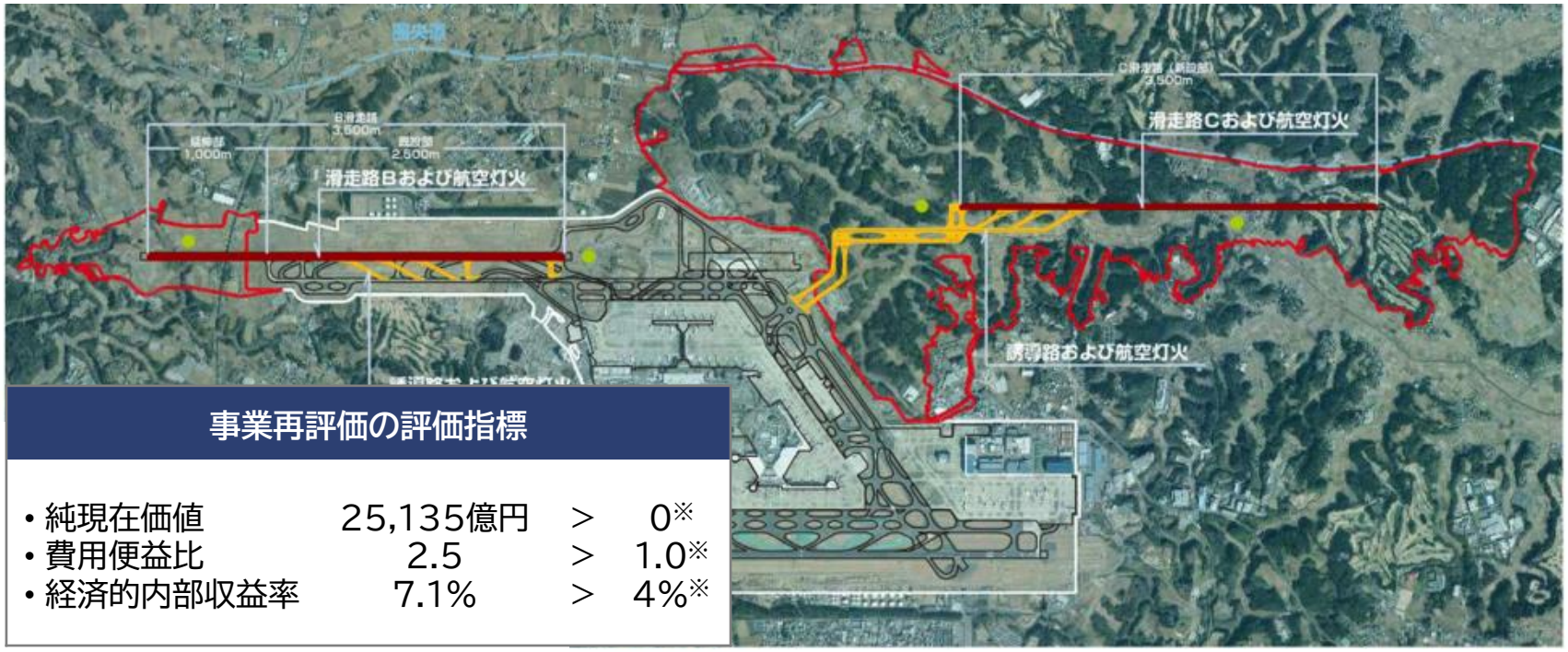


成田国際空港B滑走路延伸及びC滑走路増設事業に係る事業再評価について

Narita Airport

- 本事業は、事業採択後5年が経過したことから再評価を実施
  - ①再評価にあたっては、以下の条件を基に評価指標を算出
  - ②需要は、コロナ禍の影響等による5年程度の回復の遅れを考慮
  - ③費用は、物価高騰等を考慮した事業費を計上 【+1,582億円(5,125億円⇒6,707億円)】
- 便益は、現状水準での航空収入を前提とした供給者便益及び旅客利便性向上に関する便益のみを計上
- 事業評価監視委員会において、我が国全体の航空輸送上きわめて重要な事業であり、事業費の増加を踏まえても経済効果が充分であることに加え、積極的な環境保全や地域振興に貢献するものとして、事業を継続する対応方針案が了承されました。

※総事業費のうちNAA事業費
増額前: 4,896億円
増額後: 6,440億円
増加額: 1,544億円



事業再評価の評価指標

• 純現在価値	25,135億円	>	0※
• 費用便益比	2.5	>	1.0※
• 経済的内部収益率	7.1%	>	4%※

※社会経済的にみて効率的な事業と評価される値

『新しい成田空港』構想
成田空港の使命・主要課題・目指すべき姿と方向性

Narita Airport

成田空港の使命

我が国の基幹インフラとして、ヒトやモノの交流を活性化して日本の国際交流や産業、観光の国際競争力強化に貢献

主要課題

- 変化する航空ニーズへの柔軟な対応
- 老朽化が進み、開港当初から変わらない分散・非効率な施設を　改善し、施設取扱容量を拡大
- ファストトラベルや円滑な乗継、多様なネットワークなどによる旅客の利便性・快適性、体験価値の向上
- インバウンド旅客が日本らしさを体感できる空間・サービス提供
- 先端技術導入による効率性・生産性向上、自動化・省人化
- 安全・安心・安定運用とレジリエンス強化への対応
- 公共交通・道路等による空港アクセスの改善強化
- 脱炭素化等によるサステナブル社会実現への貢献
- 地域と空港の一体的・持続的な発展への貢献

目指すべき国際拠点空港としての姿

① 旅客ターミナル
直行需要とともに三国間流動や国際線・国内線の乗継需要を取り込み、世界と繋がる多様なネットワークをもつ国際ハブ空港

② 貨物施設
直送需要とともに三国間の継越需要も取り込み、路線便数ともに多様な航空物流ネットワークをもつ東アジアの貨物ハブ空港

③ 空港アクセス
速達性・利便性・確実性が確保され、公共交通が充実し渋滞の少ないアクセシビリティ

④ 地域共生・まちづくり
地域と空港が相互に連携し、一体的・持続的に発展していくための積極的な取組みと雇用の確保

『新しい成田空港』構想の方向性

①旅客ターミナルを再構築し集約型のワンターミナルへ

②新貨物地区の整備により航空物流機能を集約

③様々な選択肢で空港全体としての最適アクセスを実現

④地域と空港との相互連携による一体的・持続的発展

人材確保への取り組み

現行のインバウンド需要対応に加え、今後の更なる機能強化に対応するための空港従業員確保に向け、各種取り組みを推進しています。

「成田空港外国人材・定住促進連絡会」の開催

グランドハンドリング業務等の空港業務の担い手として外国人材は重要な役割を果たすなか、外国人材の確保については、住居や通勤手段の確保、地域コミュニティの受入体制、生活関連の諸手続の煩雑さ等の課題が存在しています。これらの解決のためには、航空各社やグランドハンドリング会社、地元関係者、行政等と、それぞれの現状と課題を定期的に共有することが不可欠であることから、2024年12月に「成田空港外国人材・定住促進連絡会」を設置し、初会合を開催しました。成田空港と地域における、外国人材の確保および定住促進に向けたプラットフォームとして、地域と一体となって取り組んでいきます。

空港人材対策本部

安全で安定した空港運用やお客様へのサービスの根幹となる空港人材は、成田空港の価値創造の源泉であることから、雇用促進対策、空港内の職場環境や休憩環境等の就労環境改善、イノベーション推進による空港業務の自動化・省力化等の諸施策について、空港管理者として関係機関との連携を深めながら全社を挙げて主体的かつ迅速に取り組むため設置したもの。（本部長：田村 明比古（代表取締役社長））

ウェブサイトの運営

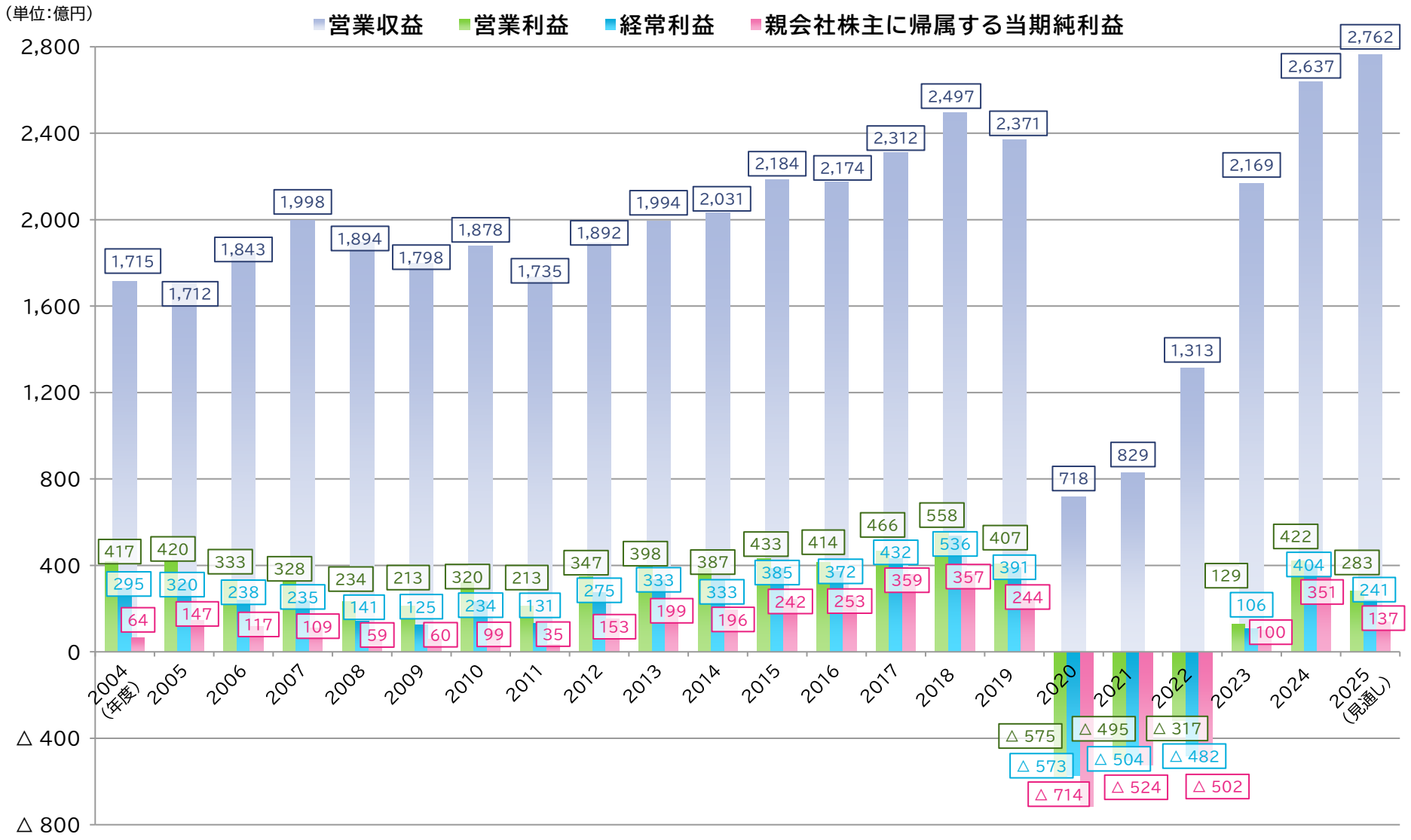
「働く、クラス、成田空港」サイトのリニューアルを2024年12月に実施し、空港の様々な仕事を広く情報発信し、“やりがい”や“楽しさ”を伝え就業機会につなげるとともに、周辺自治体と連携し、地域での豊かな暮らしぶりを紹介していくことで、“成田空港で働き、周辺地域で暮らすライフスタイル” を提案していきます。

（画像出典：https://narita-work.life/）

合同企業説明会・空港見学会等の実施

航空および空港業界についての認知度の向上および理解を深めていただくこと等を目的とした合同企業説明会や空港見学会等を実施しています。

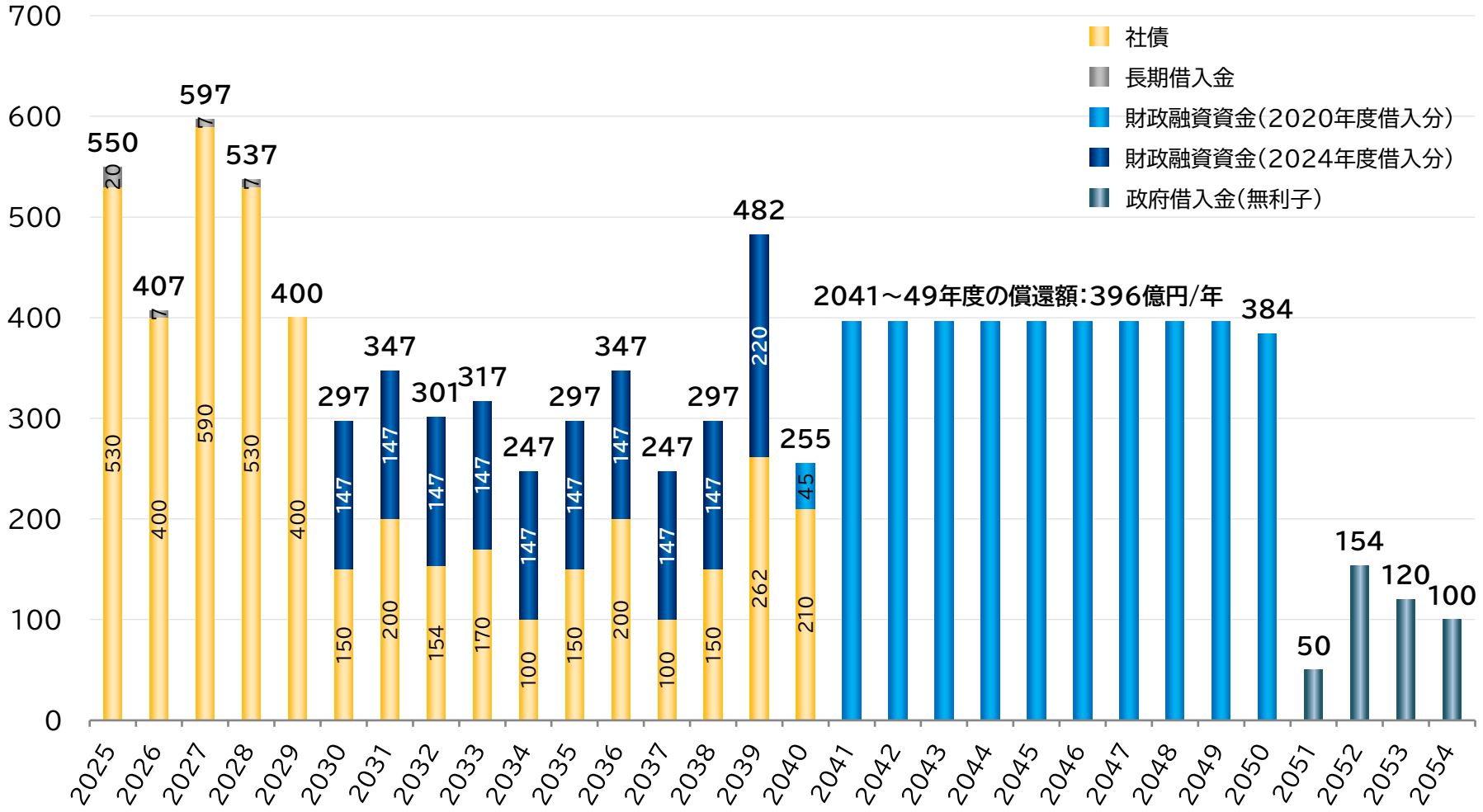
【通期】連結決算推移（民営化以降）



債務償還の見通し（連結）

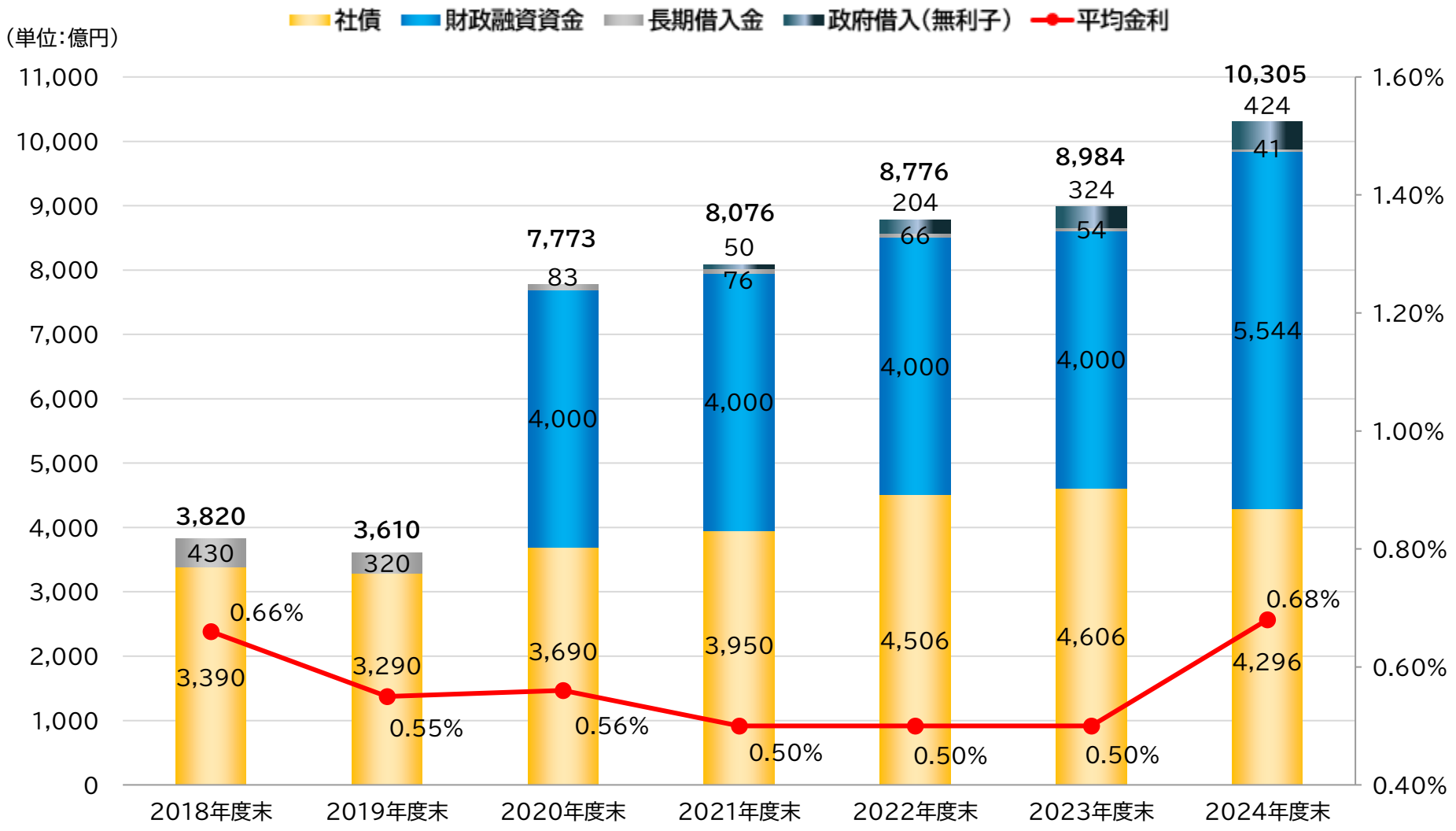
（単位：億円）

（2025年5月30日時点）



※ 債券に関する償還額は、額面金額を記載。
※ 財政融資資金（2020年度借入分）は総額4,000億円、返済方法は20年据置、以降10年元本均等返済。
※ 財政融資資金（2024年度借入分）は総額1,544億円、返済方法は5年据置、以降10年元本均等返済
※ 政府借入金（無利子）は満期一括償還で償還期限は30年。

連結長期債務残高と平均金利の推移（連結）



※ 平均金利の算出にあたっては、無利子借入金を除く。

財政状態（NAAグループ連結貸借対照表）

（単位：億円 ※端数切捨て）　（2025年3月31日時点）

流動資産

4,741

固定資産

9,367

有形固定資産　9,070

建物及び構築物	3,285
機械装置及び運搬具	298
工具、器具及び備品	131
土地	4,608
建設仮勘定	741
その他	4

無形固定資産　96
投資その他　199

流動負債

1,132

社債（1年内）	530億円
長期借入金（1年内）	7億円
その他	595億円

固定負債

10,173

社債（1年超）	3,766
長期借入金（1年超）	6,002
その他	405

純資産

2,802
（自己資本比率 19.3%）

資本金	1,197億円
資本剰余金	619億円
利益剰余金	911億円
その他包括利益	△9億円
非支配株主持分	84億円

資産合計 14,109　　負債・純資産合計 14,109

社債の発行実績

✈ 政府保証債

回 号	発行総額（億円）	年限（年）	利率（%）	発行価格（円）	応募者利回り（%）	JGBスプレッド（bp）	発行日	償還日
第1回	171.11	10	1.3	99.35	1.373	ー	2005. 2.28	2015. 2.27
第2回	148	10	1.6	100.0	1.600	ー	2006. 2.22	2016. 2.22

✈ 普通社債（一般担保付※）

※ 成田国際空港株式会社法第7条に基づく

第1回、第2回は財投機関債

回 号	発行総額（億円）	年限（年）	利率（%）	発行価格（円）	応募者利回り（%）	JGBスプレッド（bp）	発行日	償還日
第1回	500	10	1.570	99.97	1.573	T+17	2005. 3. 9	2014.12.19
第2回	300	10	1.660	99.95	1.665	T+15	2006. 3. 8	2015.12.18
第3回	300	10	1.920	99.93	1.928	T+19	2007. 2.21	2016.12.20
第4回	300	10	1.700	99.98	1.702	T+24	2008. 2.20	2017.12.20
第5回	100	10	1.730	99.95	1.735	T+25	2008. 8.20	2018. 8.20
第6回	400	10	1.800	99.92	1.809	T+49	2009. 2.20	2019. 2.20
第7回	200	10	1.474	100.0	1.474	T+16	2009. 9.25	2019. 9.25
第8回	200	10	1.562	100.0	1.562	T+22	2010. 2.10	2020. 2.10
第9回	100	10	1.477	100.0	1.477	T+14	2011. 2.21	2021. 2.19
第10回	200	10	1.094	100.0	1.094	T+9	2011. 9.20	2021. 9.17
第11回	200	10	1.067	100.0	1.067	T+12	2012. 2.20	2022. 2.18
第12回	100	10	0.879	100.0	0.879	T+6	2012. 9.20	2022. 9.20
第13回	200	10	0.802	100.0	0.802	T+7	2013. 2. 8	2023. 2. 8
第14回	100	10	0.894	100.0	0.894	T+8	2013. 7.24	2023. 7.24
第15回	200	10	0.739	100.0	0.739	T+12	2014. 2.20	2024. 2.20
第16回	200	10	0.570	100.0	0.570	T+8	2014.10.28	2024.10.28
第17回	250	10	0.489	100.0	0.489	T+13	2015. 2.20	2025. 2.20

社債の発行実績

回 号	発行総額(億円)	年限(年)	利率(%)	発行価格(円)	応募者利回り(%)	JGBスプレッド(bp)	発行日	償還日
第18回	160	10	0.556	100.0	0.556	T+23	2015.10.30	2025.10.30
第19回	200	10	0.275	100.0	0.275	T+23	2016. 2.18	2026. 2.18
第20回	50	10	0.105	100.0	0.105	T+20	2016. 8.23	2026. 8.21
第21回	100	20	0.427	100.0	0.427	T+14	2016. 8.23	2036. 8.22
第22回	100	10	0.230	100.0	0.230	T+17	2016.12.16	2026.12.16
第23回	100	20	0.677	100.0	0.677	T+13	2016.12.16	2036.12.16
第24回	100	10	0.250	100.0	0.250	T+20	2017.12.18	2027.12.17
第25回	50	20	0.671	100.0	0.671	T+10	2017.12.18	2037.12.18
第26回	130	10	0.250	100.0	0.250	T+20	2018. 3.12	2028. 3.10
第27回	50	20	0.657	100.0	0.657	T+10	2018. 3.12	2038. 3.12
第28回	50	5	0.050	100.0	0.050	ー(※)	2018.10.22	2023.10.20
第29回	100	10	0.319	100.0	0.319	T+17.5	2018.10.22	2028.10.20
第30回	50	20	0.770	100.0	0.770	T+11.5	2018.10.22	2038.10.22
第31回	50	5	0.050	100.0	0.050	ー(※)	2019. 1.29	2024. 1.29
第32回	100	10	0.220	100.0	0.220	T+20.5	2019. 1.29	2029. 1.29
第33回	50	20	0.599	100.0	0.599	T+11.5	2019. 1.29	2039. 1.28
第34回	100	10	0.080	100.0	0.080	ー(※)	2019. 9.19	2029. 9.19
第35回	50	20	0.270	100.0	0.270	ー(※)	2019. 9.19	2039. 9.16
第36回	100	10	0.200	100.0	0.200	T+19.5	2020. 1.29	2030. 1.29
第37回	50	20	0.424	100.0	0.424	T+11.5	2020. 1.29	2040. 1.27
第38回	150	10	0.195	100.0	0.195	T+17.5	2020.10.28	2030.10.28
第39回	150	15	0.409	100.0	0.409	T+16.5	2020.10.28	2035.10.26
第40回	50	18	0.529	100.0	0.529	T+17.5	2020.10.28	2038.10.28
第41回	150	20	0.575	100.0	0.575	T+17.5	2020.10.28	2040.10.26
第42回	150	1	0.001	100.0	0.001	ー(※)	2021. 9.16	2022. 9.16

(※)絶対値でのプライシングを実施

社債の発行実績

回 号	発行総額（億円）	年限（年）	利率（%）	発行価格（円）	応募者利回り（%）	JGBスプレッド（bp）	発行日	償還日
第43回	150	5	0.050	100.0	0.050	ー(※)	2021. 9.16	2026. 9.16
第44回	100	10	0.185	100.0	0.185	T+14.5	2021. 9.16	2031. 9.16
第45回	100	5	0.090	100.0	0.090	ー(※)	2022. 2.10	2027. 2.10
第46回	100	10	0.304	100.0	0.304	T+13	2022. 2.10	2032. 2.10
第47回	60	19	0.687	100.0	0.687	T+13.5	2022. 2.10	2041. 2. 8
第48回	170	3	0.190	100.0	0.190	ー(※)	2022. 8.10	2025. 8. 8
第49回	130	5	0.261	100.0	0.261	T+28	2022. 8.10	2027. 8.10
第50回	87	10	0.500	100.0	0.500	T+31	2022. 8.10	2032. 8.10
第51回	73	17	0.978	100.0	0.978	T+29	2022. 8.10	2039. 8.10
第52回	160	2	0.281	100.0	0.281	T+29	2023. 2. 2	2025. 1.31
第53回	230	5	0.504	100.0	0.504	T+34	2023. 2. 2	2028. 2. 2
第54回	67	10	0.900	100.0	0.900	ー(※)	2023. 2. 2	2033. 2. 2
第55回	89	17	1.500	100.0	1.500	ー(※)	2023. 2. 2	2040. 2. 2
第56回	330	5	0.459	100.0	0.459	T+23	2023. 9. 21	2028. 9. 21
第57回（グリーン）	170	10	0.843	100.0	0.843	T+21	2023. 9. 21	2033. 9. 21
第58回	200	5	1.021	100.0	1.021	T+18.5	2025. 1. 27	2030. 1. 25
第59回	100	10	1.371	100.0	1.371	T+19	2025. 1. 27	2035. 1. 26

（※）絶対値でのプライシングを実施

経営理念

NAAは、国際拠点空港としての役割を果たし、
グローバルな航空ネットワークの発展に貢献する、世界トップレベルの空港を目指します。

経営ビジョン

1. 安全を徹底して追求し、信頼される空港を目指します
2. お客様の満足を追求し、期待を超えるサービスの提供を目指します
3. 環境に配慮し、地域と共生する空港を目指します
4. 効率的で透明性のある企業活動を通じ、健全経営とさらなる成長を目指します
5. 鋭敏な感性を持ち、柔軟かつ迅速な行動で、社会の期待に応えます

NARITA AIRPORT

終わりにあたって

- 本資料は、当社の業績等について投資家の皆様に情報提供することを目的としたものであり、債券の募集又は売出を意図したものではありません。
- 本資料の内容については、将来の予測や見通しに関するものが含まれておりますが、こうした将来の予測等には不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。
- 将来の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おきください。

成田国際空港株式会社　財務部 財務計画室
TEL:0476(34)5838　同5489